

## P T A会長だより 10月号

神宮前小学校 P T A  
会長 椎名伸吉

10月17、18日の両日、神宮前小学校は学校公開日でしたが、来年春の新1年生になるお子様の保護者の方々が、見学に来て下さいました。驚くべきことに、昨年と同じ時期の公開日の時をはるかに上回る、数十人もの保護者が来て下さり、これまでにない活気に満ちあふれました。

しかも、さらに驚くのは、何と渋谷区以外の他区から入学したいという方々が続々と来て下さったことです。隣の港区はもちろん、目黒区や台東区、文京区、江戸川区、北区など広範囲にわたっています。また渋谷区内でも千駄ヶ谷、代々木方面や、松濤、代々木八幡、初台、代々木上原方面からも見学に来て下さいました。

今年春も入学者は激増しましたが、今回は今まで例がない広範囲から保護者の関心を集めています。神宮前小学校が生まれ変わったことが、いかに注目を集めているか。また、『会長だより』8月号、9月号でも書いたように、本校の極めて高い学力レベルが評価されたことを示しており、在校生の保護者にとっても、喜ばしいことに違いありません。特に、他区からの入学は難しい課題があるにもかかわらず、それでも我が子を入れたいたいという指名を受けるようになったのです。

週刊『AERA』9月22日号によると、今年春入学児童について、神宮前小学校は学区外からの入学割合が53・3%に達しました。これは渋谷区内の小学校の中で断トツに高い数字です。学校選択制を採用している都内14区でも、学区外比率が50%以上という小学校は、13校しかありません（数値不明の品川区を除く）。学区外からの子供がたくさん集まってくるほどの人気校に変わったということは、私たち在校生の保護者も十分認識する必要があります。

神宮前小学校は、国際理解と日本の伝統教育文化に関するモデル校であり、しかも外国語教育の学校が同じ敷地に同居している、全国唯一の形です。そして1学年1クラスの徹底した少数精鋭主義で、高い学力を生み出し、なおかつ子供たちひとりひとりを大切にするアットホームな校風です。

つまり、公立校でありながら、私立校的な学校に変わり、幅広い地域から入学者を集める方向性で歩みを進めているのです。これは渋谷区内の他の小学校とは、まったく違う独自色を打ち出していると言えます。

当然ながらP T Aも、こうした学校の大きな変化に沿って対応していく必要があります。